

【本丸】慶長6年(1601)の初めから本格的に建設が開始されました。青葉山段丘の海拔117mの山上に築かれた本丸は、東西約245m、南北約267mもの広さでした。平成9年(1997)から行われた発掘調査によって、築城期の石垣などが発見され、注目を集めています。

1 詰門(つめのもん)

本丸の正門になる門。現在は宮城縣護國神社の鳥居が建っています。江戸時代初期には門の両脇に三重の櫓(東西脇櫓)が建てられていました。

2 大広間(おおひろま)

慶長15年(1610)に完成した本丸の中心的な建物で、藩の政治や儀式の場でした。畳敷き部分が約260畳もあって俗に「千畳敷」と呼ばれ、内部は桃山様式の障壁画などで飾られていました。

3 北面石垣(ほくめんいしがき)

仙台城は、南は竜ノ口渓谷、東は広瀬川、西は青葉山の自然林に守られた天然の要害でした。そのため、石垣は主に北側に築かれました。平成9年からの調査で新たに時期の異なる2つの石垣が発見され、現存の石垣が、寛文8年(1668)の地震で崩れたあとに積み直されたものとわかりました。

4 長櫓(うしとらやぐら)

長=北東の方向に建てられた三重櫓。正保3年(1646)の地震で壊れてしまい、以後再建はされませんでした。

5 懸造(かけづくり)

本丸東側の崖に建てられた書院造の眺望台。城下を一望でき、慶長14年(1609)には、政宗がここから広瀬川の対岸で行われた鉄砲つるべ打ちを見物しています。

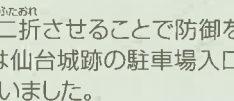


6 翼櫓(たつみやぐら)

翼=南東の方向に建てられた三重櫓。この櫓も正保3年(1646)の地震で壊れ、再建されませんでした。

7 埋門(うずみもん)

本丸南側の門。西を向き、入口で二折させることで防御を固める構造になっていました。現在は仙台城跡の駐車場入口になっており、かつては石垣も残っていました。



【二の丸】寛永15年(1638)、政宗の子二代藩主忠宗によって、本丸より49m低い平地に造営されました。規模は、東西約313m、南北約202mで、江戸時代を通じて、政治を行う場及び藩主の日常生活の場でした。

8 大手門(おおてもん)

江戸時代の仙台城の“顔”とも言うべき建物で、桃山建築の特長を生かした二階建、瓦葺の豪壮な建物でした。戦前は国宝に指定されていましたが、昭和20年(1945)の仙台空襲で全焼し、今はその跡だけが残っています。

9 脇櫓(わきやぐら)

「隅櫓」とも言われますが、実際は大手門の「脇櫓」で、一部二階造となっています。大手門同様、仙台空襲で焼けてしまいましたが、昭和40年(1965)に復元されました。

10 詰門(つめのもん)

二の丸の御殿部分への入口で、「表門」とも呼ばれました。瓦葺で棟の両端に鯺がのる堂々たる門でした。現在の東北大学構内、川内萩ホール前の広場の一角にあたります。

【三の丸】江戸時代の城下絵図には「蔵屋敷」「御米蔵」「東丸」などと記され、年貢米などの収蔵施設として用いられていましたが、政宗時代には、庭園や茶室をとまなう屋敷があったことが分かっています。広さは東西約144m、南北約117mでした。昭和36年(1961)に仙台市博物館が建設され、今日にいたっています。

11 子門(ねのもん)

博物館敷地への入口となっている所に建っていた門。二階建・瓦葺の門で、積み直された石垣が残っています。

12・13 堀(ほり)

三の丸は、堀と土塁で堅固に囲まれていました。北側の堀は現在の五色沼です。明治23年(1890)頃から外国人がスケートで滑りはじめ、後にその指導を受けた学生が日本ではじめてフィギュアスケートをしました。沼の東側に「日本フィギュアスケート発祥の地」の碑があります。



東側の堀は現在の長沼です。正保の城下絵図から南北約252m、深さ約4.5mあったと分かります。

14 土塁(どるい)

三の丸を囲む土塁は、正保の城下絵図では「岸」や「土手」と記されています。長沼側の土塁は高さ約3.6mありました。

15 翼門(たつみもん)

三の丸南側の門。二階建・瓦葺で、昭和20年(1945)まで建物が残っていました。現在は礎石のみが見られます。

16 酒蔵屋敷(さかぐらやしき)

政宗が大和国(奈良県)から招いた酒造りの職人、榎森又右衛門の屋敷地といわれています。以後、明治時代初めまで、榎森家は御用酒屋として仙台城などで用いる酒を造りました。

17 清水門(しみずもん)

翼門から沢門に至る上り坂の途中にあった二階建の門で、近くにあった湧水が名前の由来のようです。付近には野面積みの石垣が残っています。



18 沢門(さわのもん)

翼門から清水門へと抜ける登城路が、大手門から中門へと抜けていく登城路に合流するところに設けられた門。本丸の埋門・西門と同様、入口を二折させる構造になっていました。

19 中門(なかのもん)

大手門から本丸へ登る道の途中に設けられた門。二階建・瓦葺の建物で「寅門」とも呼ばれており、大正時代まで残っていました。現在も道の両側に石垣が残っています。

20 中島池(なかじまいけ)

青葉山の湧水で、仙台城の重要な水源であった“御清水(おすず)”などから供給される水をせき止めて作られた池です。正保の城下絵図では「ため池」と記されています。第二次大戦後、二の丸跡が米軍キャンプとなった頃に埋め立てられ、現在その姿を見ることはできません。

表紙写真 (上) 平成12年6月撮影
(下) 奥州仙台城絵図 正保2年 (財) 斎藤報恩会蔵

発行 仙台市博物館
仙台市青葉区川内26番地 <仙台城三の丸跡>
TEL/022-225-3074

発行日 第3版 平成22年12月
印刷 今野印刷株式会社



仙台城探検マップ

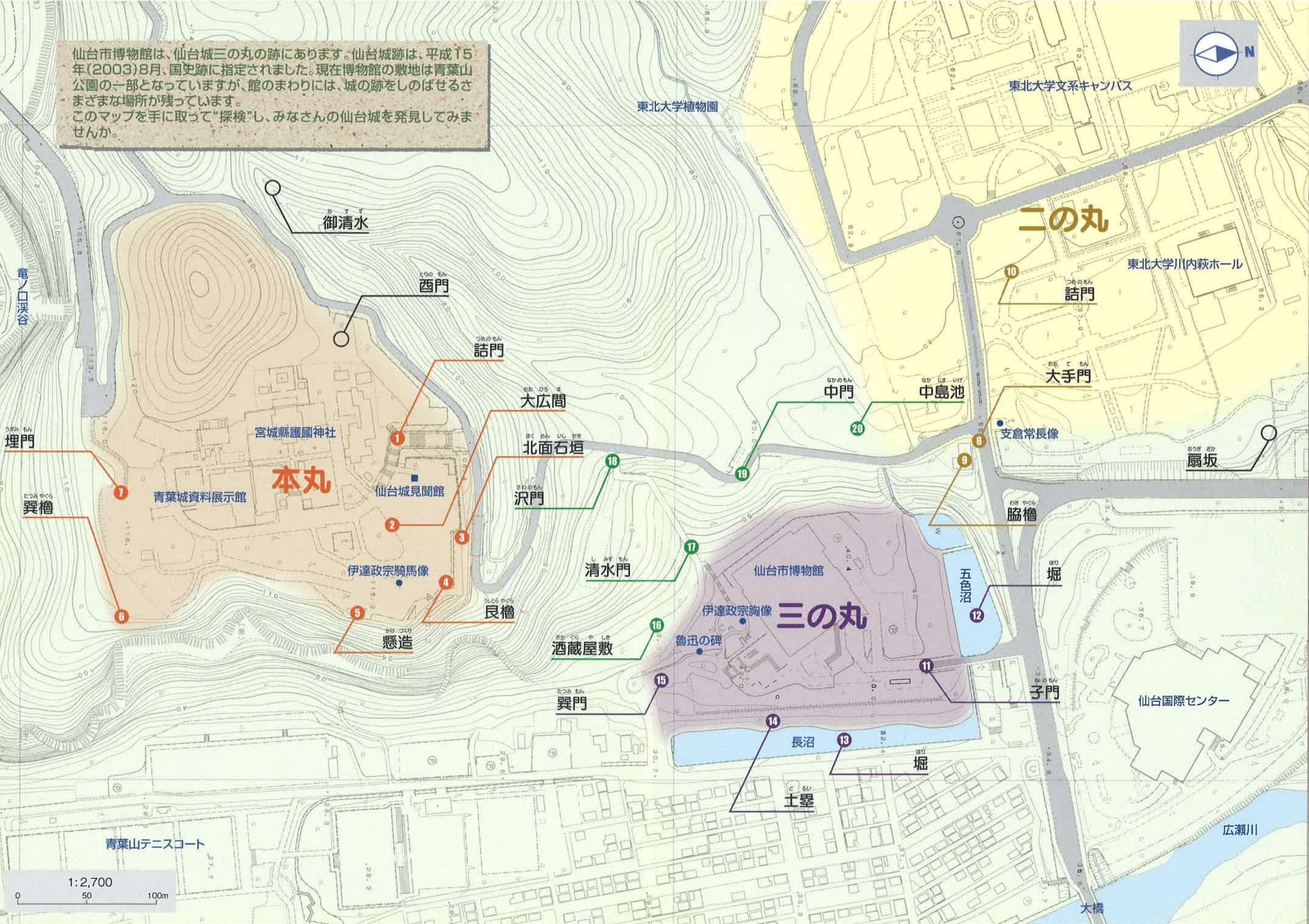


SENDAI CITY MUSEUM
仙台市博物館

歴史と文化を未来につなぐ 一 観る、知る、楽しむ。学んで、考える博物館



仙台市博物館は、仙台城三の丸の跡にあります。仙台城跡は、平成15年(2003)8月、国史跡に指定されました。現在博物館の敷地は青葉山公園の一部となっていますが、館の周りには、城の跡をしのぼせるさまざまな場所が残っています。このマップを手にとって“探検”し、みなさんの仙台城を発見してみませんか。



1:2,700
0 50 100m